

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772300044		
法人名	社会福祉法人 幸仁会		
事業所名	さわやかホーム比謝川の里		
所在地	沖縄県中頭郡嘉手納町字水釜336-2		
自己評価作成日	平成24年7月26日	評価結果市町村受理日	平成24年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action kouhyou detail 2010 022 kani=true&JigyosyoCd=4772300044-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な中でやりがいを見出す支援と余暇活動の充実

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道近くの住宅地に立地しているが、近隣の社会資源施設を上手に利用し、入居者の日常生活活動の一つとして活用している。向いの広い駐車場で行われる催し物を入居者と一緒に見物したり、近隣の店舗で入居者の誕生会を開いたりとその時々を楽しめるよう支援している。また、週2回の外出を実施し、法人施設や周辺店舗、食材等の買物には日常的に出かけている。食事は3食事業所内で調理し、一緒に摂っている。入居者の介護計画書は個別のケアチェック表で毎日記録し、計画に沿ったサービスの実施状況が確認できる書式となっている。前年度の外部評価目標達成計画にも取組み、地域との関りを「入居者の計画にも地域交流」等と位置付け、地域の情報収集に努めながら支援している。更に、地域密着型サービス事業所に求められる、入居者の終の棲家として方針等を整備し、医療連携や職員体制等に取組む予定である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は去年と同じ「運営理念」を強化する事で3月の定例会に新年度の事業計画の話し合いを持った。	理念は3項目あり、その内「余暇活動の充実」については、家族の「リハビリを増やしてほしい」等の意見を踏まえ、職員は意識して取り組んでいる。事業所内に理念を掲示したり、定例会や送り等でも職員間の周知を図っているが、今後は更に理念の振返りの機会を増やしたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの大型スーパーに利用者と一緒に買い物に行ったりお隣に庭で採れたゴーヤーを持って行ったり、又、近所の店舗が主催するプロレスショーを観戦に行ったりし、交流を図っている。	地域の行事等は自治会長から情報を得て入居者全員で出かけ、ゲートボール等の見学や、時には、地域の方から声かけもあり交流している。幼稚園児の訪問があり、園児達が踊りを入居者に披露している。また、地域の社会資源を活用し、誕生会の場所に設定したり、入居者個別の買物に大型店舗を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元、中学生の職場体験実習を受け入れたり、介護教室での一般人の施設見学の際にグループホームのあり方を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は規定のメンバーが参加し去年は6回、開催した。地域の行事等、参加の委員には情報提供して頂いている。	運営推進会議は規定を遵守して定期に開催し、事業所側から入居者状況や活動内容を報告している。会議の議事録については、家族や関係者等委員間の意見や要望等の記述はあるが、外部評価結果の報告等の確認はできない。	運営推進会議の意義を踏まえ、議事内容や記録等を確認し、サービスの質の向上に活かせるよう議事録の整備が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には福祉課、地域包括センターの職員も参加して頂き、こちらからはホームの近況報告、又、スプリンクラーの補助申請にはご協力頂いたり、空き状況等の問い合わせに情報提供している。	運営推進会議の案内等の為行政窓口を訪問し、事業所の運営状況等の情報交換をしている。包括支援センターとは困難事例で意見交換し、成年後見制度を利用に繋げる仕組み等を検討している。会議には福祉課と包括支援センター双方が参加し、各々の役割を担い事業所への支援等で連携協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	去年、入所した利用者が頻繁に外出する様になり、危険な行為が見られた事から、その後、手薄の時は施錠する様になった。	運営規定等で事業所の方針を明確にし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者の様子を観察し、不穏時には外出や傾聴で対応する他、入居者の状態が良い時の情報を職員間で共有し実践している。また、入居者の現状態で4点柵の継続が必要か否かを職員間で検討し、家族の理解を得て柵外しに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間においても、虐待を見逃さない様にお互いを意識し、おかしいと感じたら報告し合う。		

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、話し合いが出来ていない状況ですが、施設内の勉強会の権利擁護の研修報告会には多くの職員が参加した。又、いつでも資料を閲覧できるように準備してある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする時に、十分に理解できる様に説明、質問に答えられる様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度、7月、12月に値上がりする予定の「食費・管理費の値上げ」による家族説明会を開催した。次回の運営推進会議で報告、予定です。	入居者に声かけして、発する言葉や表情で意向や要望を把握し、入居者の直の訴えには、帰宅を望む場合は家族へ電話する、消耗品の買物等には一緒に外出し、入浴の拒否には時間の調整等、個別に対応している。また、家族から「食事に揚物が多い」の意見には、できるだけヘルシー食で応えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、法人執行部との運営委員会があり、職員が困っている事や提案を報告し、運営改善に反映させている。又、毎月定例会として管理者、職員がそれぞれの意見や要望を率直に言える雰囲気は保たれていると思います。職員の意見や要望は「伺い書」で検討され改善に向け取り組まれる。	職員間の意見等は定例会で把握し業務改善等に繋げている。例えば、入居者との関わりを増やす為に、買物に出かける頻度をこれまでの週5回から週4回に減らし支援の充実を図っている。職員は研修等へ受講費の支援や勤務体制の協力を得て参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	去年、職員の体調不良による長期休暇が出た際、代表に応援職員の依頼。直ぐに対応してもらえた。今回、介護福祉士の合格者は全員、手当での加算、昇給につながった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	去年は毎月、施設内研修があった。今年度は外部研修の機会を増やしていくとの事である。グループホーム連絡会、看取り・感染症・その他。多くの研修に参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会にて同業者との情報交換や困ったことは、お互い相談し合っている。連絡会は多くの施設の交流の場である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のアセスメントをしっかりと取り、本人の生活状況を把握し、主のペースに合わせた対応で接する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や要望を職員全員で受け止め、共有するケアを行っている。又家族に状態の変化等は都度、報告する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と本人の意向、身体状況を把握し、現在、どの様な支援が必要かを看護師上司にも相談し見極め、他のサービス情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人格を尊重し、ホーム生活を通して、お互いの得意分野を活かした役割分担を行い、共に協力し支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が抱えている問題や不安を職員だけでなく、家族と共に協力して考える様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が慣れ親しんだ人の話や場所が途切れる事がない様にコミュニケーションを図っている。時には、ふる里訪問も行っている。昔から馴染みの美容室や理容館に行き、友人・知人との交流も図られている。	入居者の受診先で地域の方から得た情報を活かし、「〇〇に会いたい」と訴えがある場合等は地元の方たちが集まる商店へ出かけ交流の機会にしている。入居者を尋ねてくる友人、知人も多く、入居者の行きつけの理容館店主の訪問は頻回に受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、上手く馴染めない方には職員が補助役になって関係づくりを支援している。		

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院になり、退所になった利用者家族に次の行き先が決まるまでの支援を行った。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の希望。家族の意向を聞き、家族も含めた、その人らしい生活を前提とし検討している。利用者の生活歴の把握に努め、ホーム活動、生活全般が、その利用者にとって生き甲斐につながる様な支援を心掛けている。	職員はアセスメントで入居者の思いや意向を把握し、役割事、食べ物や嗜好品、生活習慣等をそれぞれ継続できるよう務めている。経験を活かして洗濯物たたみや掃除を入居者の役割に、三味線を嗜む入居者とは民謡を一緒に唄い、静養を優先する入居者には座位の時間を調整する等個々に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人、家族から生活歴や趣味・嗜好・生活の情報を聞き取り、担当したケアマネや主治医から診療情報も提供して頂き把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格や好みに出来るだけ添う様にホーム活動を支援している。塗り絵・パズル・カルタ遊び・音楽鑑賞・DVD観賞			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員からの情報と主治医、他医師からの診療情報を参考にチームで話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成し月1回のモニタリング、ケアカンファレンスを行い見直しを行っている。緊急の対応事例は少ないが変化があれば見直しを行う様に取り組んでいる。	入居者の介護計画は担当者会議や毎月のモニタリングを実施し作成している。入居者から「何か手伝える事はないか」との声を歓迎し役割を組み入れたり、ドライブや買物、庭仕事等入居者の意向を計画に反映している。また、アセスメントも随時作成し、計画の更新時や見直し、退院時等に活用している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録に日々の様子や実践等を記載している。又、利用者個々に変化があれば、その都度、職員間で情報を共有し見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族に外出や外泊の希望があれば、柔軟に対応している。知人等に会いたいとの希望や面会時間も柔軟に対応している。			

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の大型スーパーの店員さんとも顔なじみになり利用者も一緒に行くと、気軽に声かけする関係だ。又、夕方の散歩等で地域の方と顔見知りになっている事から、利用者を見かけると気軽に挨拶してくれる様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医を受診支援している。受診は基本的に家族対応だが、家族からの要望があれば職員が同行受診する。受診時は病状の他に、利用者の日頃の様子等も情報提供している。	馴染みのかかりつけ医や、認知症専門医を受診している。家族対応で受診しているが、家族から受診同行の希望がある場合には職員が対応し、診療時に医師と情報交換や相談等も行っている。家族の対応時には、書面や口頭で情報を伝達し、受診結果等の報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化の場合、看護師に連絡、24時間オンコール体制で行っている。又、医療が必要な利用者には訪問看護(医療)の支援も行っていた事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者や家族が安心して入院・治療できるように、お見舞いや病院関係者との情報交換や相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については家族も不安なことから要望等は話し合っている。事業所で出来ることの限度も話す様にしている。看取りについての支援は、まだ不十分なところがある。「看取りについての指針」の同意書は作成しているが、未だ利用者家族から確認は取っていない。事業所としての限界もあるので今後の課題の一つといえる。	事業所は重度化の際には家族の意向等を確認し、医療機関や施設等の利用に繋げている。また、「看取りについての指針」を家族に提示する機会もあったが、その後、家族や医療機関等を含めた話し合いはなく、職員間での意思統一が図られない為、体制整備に取組めない状況である。	重度化や終末期に向けて、事業所は今後どう対応できるか、医療機関との協力等を含めた方針の整備と、職員間の意思統一に取り組んでほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に資料等は目に付く所に設置して、日々の急変時に備える体制であるが、実施訓練の実践は施行していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、火災・避難訓練は施行している。東日本の災害があったから「地震・津波マニュアル」を作成し、避難・誘導の場所の確保や協力支援もお願いしている。	訓練は、消防署協力の下で年2回実施し、1回目の課題(声の大きさや2階からの避難方法、機器取扱いの注意)は、2回目にはクリアし自信を得ている。訓練時には、地域住民に声かけしたが参加協力は得られず、また、2階のベランダに室内から避難する為の掃出し口の造作を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や病状を把握し、プライドを傷つけない様に心がけている。利用者が不穏になった場合「寄り添う」ケアを実践する様にすると落ち着く場合が多い。時には、「見守る」だけの支援で落ち着く利用者もいる。	入居者の権利や尊厳を規定等で謳い、「ケア職員の倫理」、プライバシー保護マニュアル等を整備している。入居者一人ひとりの日々のケアを丁寧にすることを心がけ、言葉かけには細心の注意をはらっている。不適切な言葉には、その場で注意や職員間で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム生活の中で利用者個々の能力を把握し、押し付けの無い様、喜び、悲しみ、怒り等、どんな事でも話せる様、質問内容や選択の仕方を工夫し、自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の居心地のいい場所を尊重し出来るだけ自由に当たり前の生活が出来る様にしている。外出したい時等、利用者のペースに合わせて対応する様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏場でも長袖でないと落ち着かない利用者に対して、そのまま本人の希望を尊重する様にしている。又、入居前からの馴染みの美容室・理容館での整髪支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備でもやしの根取り、葉野菜のつくろい、ご飯をよそう等、又、味付け等、出来る事は利用者が手伝ったという意識をして頂いている。食事は各利用者の能力に合わせた食事形態となっている。職員、見守りの中、職員・利用者合同の食事タイムである。	食事がバランスよく献立されているか管理栄養士に伺う等、視覚でわかるように時々写真で残すなど工夫している。利用者は、食材の買い物や下ごしらえ、皮むき等に参加している。職員も一緒にテーブルを囲み、介助、見守りしながら楽しい雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量や食事量のチェックを記録している。食事の盛り付け、アチビー、キザミキサー食と本人の好みや能力摂取しやすい工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時や毎食後の口腔ケアは必ず施行している。個々の能力に合うやり方で、十分に出来ない方は最後に確認支援している。		

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己排泄の訴えない方は、排泄パターンを把握し誘導、また、自己排泄できる方は自立支援を促し見守り介助している。失禁時には周りに気づかれない様、浴室へ誘導の声かけをし、手早くさりげなく対応している。	入居者の排泄パターンを把握してトイレ誘導しているが、身体面で立位が困難な入居者に限ってはベット上で対応している。これまで下痢便を繰返していた入居者へ適切な水分摂取に取組んだところ改善し、排泄の失敗等も減って睡眠も良くなり、眠剤の服用を中止している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分を十分に促し、摂取してもらっている。頑固な便秘の利用者には牛乳、緩下剤等の調整もしている。歩行等の軽運動もその対策としている。水分の十分な摂取は下痢症状に良い効果を見せている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者に入浴のお誘いし、拒否の場合は無理強いせず時間を置いてタイミングを図りながら施行。又、急な入浴希望の訴えにも臨機応変に対応する様にしている。	入浴はシャワー浴で週3日を基本とし、同性介助が厳しい場合は了解を得て支援している。浴室環境が要因で、入居者の状態によっては職員3人で対応する場合もある。排泄の失敗や入浴拒否時には部分浴や清拭等で清潔保持に努めている。また、特に入浴時には入居者の離床時間を意識するよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、日中の活動や精神的に不安を与えないようなケアを心掛けている。疲れている様子であれば日中でも臥床する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬箱があり、処方箋を貼って副作用の確認等、出来る様にしている。薬の変更があった場合は職員全員で観察し看護師との連携も取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭でもそうであった様に洗濯物をたたむ事は自分自身の仕事と責任を持って取り組む利用者がいる。疲れ過ぎない様に気分転換の支援も忘れずに行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(月)(木)と、週2回、外出日を設けている。本体である法人に用事がある時は、利用者も一緒にリハビリを兼ねて行く様にしている。週2回のドライブでは人が多く集まるドライブインやイベント会場等、大きなファーマーズへ食材の買い物へ出かける	入居者は日々の食材の買い物に職員と同行したり、車いすの入居者は家族の協力のもと事業所周辺を散歩している。週2回の外出は歩行可能な入居者が中心となっているが、ランチバイキングは全員が参加し、食事も美味しく、楽しい五感刺激の外出となっている。	

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者、全員、お金の自己管理が難しく、ホームにてのお預かりである。「私はお金が無い」等、心配をする利用者には、「家族から〇〇さんの分、ここにいっぱい預かっているよお」と本人が安心する様な対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚に連絡して欲しいとの希望がある時は、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間の照明で、日差しが共有の居間に差し込み明るい。テレビ・ラジオも利用者の希望の音量に合わせている。庭も眺める事が出来、天気も確認できる。	共用の畳間、食堂、台所、風呂場等は民家を改修しているので家庭的な雰囲気となっている。畳間にソファや椅子を置き、入居者がゆったりと庭を眺めながら過ごし、畳間の壁には入居者と協同の作品を飾っている。2階には階段の他エレベーターで乗降でき、入居者は日中の静養時は居室を利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや椅子は皆が自由に座れる様になっている。一人で過ごしたり、2,3人で座るソファもあり、気のあった者、同士で過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・洋服タンスは施設でも設置しているが、ご自宅から持ち込んでいる方もおられる。又、宗教も制限しないで自由に居室で持っている方も支援。ご家族のお写真も置いて気持ちを安定させている。	居室は1階に2部屋、2階に7部屋を設け、ベッドやタンス等を備付け、入居者は家族の写真や時計、加湿器やラジカセ、テレビ等を持ち込んでいる。居室でお経を唱える入居者、習字の掛け軸を毎日音読する入居者等、各々が落ちつける環境としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄時や居室からのコールで、立ち上がり転倒等の予防になっている。又、エレベーターの上り下りのボタン指導で1階～2階への移動も数人の利用者が出てきている。		